

国際交流基金日本語基礎テスト（JFT-Basic）

3月から日本国内でも実施開始

国際交流基金（JF）は、2021年3月から日本国内で、国際交流基金日本語基礎テスト（以下、JFT-Basic）を開始します。

JFT-Basicは、主として就労のために来日する外国人が遭遇する生活場でのコミュニケーションに必要な日本語能力を測定し、「ある程度日常会話ができ、生活に支障がない程度の能力」があるかどうかを判定することを目的としています。2019年4月以降、海外（モンゴル、インドネシア、カンボジア、タイ、フィリピン、ミャンマー、ネパール）において実施し、14,900名が受験し、5,543名が基準点に到達しています（2020年12月9日時点）。

JFT-Basic
国際交流基金 日本語基礎テスト

2019年4月に創設された在留資格「特定技能1号」の申請には、特定産業分野の技能試験と、日本語試験の合格が要件（技能実習2号を良好に修了した者はいずれの試験も免除）となっています。JFT-Basicは、「特定技能1号」を得るために必要な日本語能力水準を測る試験としても活用されています。

特定技能の技能試験は、14の特定産業分野のうち13分野が日本国内で実施されており、JFT-Basicの国内実施によって、在留資格「特定技能1号」申請希望者には、これまでの日本語能力試験（JLPT）のN4レベル以上の受験のほかにJFT-Basic受験という選択肢が加わり利便性が増します。また、47都道府県120都市程度の会場で試験を実施予定で、受験者は最寄りの会場で受験することが可能です。

【JFT-Basicの特徴】

- ① 2019年4月に新設された在留資格「特定技能1号」の申請に使えます。
- ② テスト会場でコンピュータを使用して出題、解答します。テスト結果は受験後すぐにわかります。
- ③ テストは年6回実施予定。受験機会が多くあります。



試験実施イメージ

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp

ご報告

■国際交流基金日本語基礎テスト（JFT-Basic）国内実施概要

主催 : 国際交流基金（JF）
 開催日程 : 初回は2021年3月1日（月）～19日（金）。2021年度より年度あたり6回を予定。
 会場 : 47都道府県 120都市程度の会場で実施
 受験料 : 7,000円（消費税相当額を含む）
 受験資格 : 日本在留資格をもつ、母語を日本語としない外国人（その他、国籍別の要件あり）。
 受験申込方法 : プロメトリック社（テスト実施委託業者）の予約ウェブサイトからのオンライン申込み
 （<http://ac.prometric-jp.com/testlist/jfe/index.html>）。受験予約開始は2月1日（月）を予定。

■テストの形式・構成

コンピュータを使用して出題、解答する CBT 方式です。受験者は、ブースで、コンピュータの画面に表示される問題やヘッドフォンに流れる音声をもとに、画面上で解答します。「文字と語彙」「会話と表現」「聴解」「読解」の4セクションで構成され、受験時間は60分間です。



この件に関するお問い合わせ :

国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

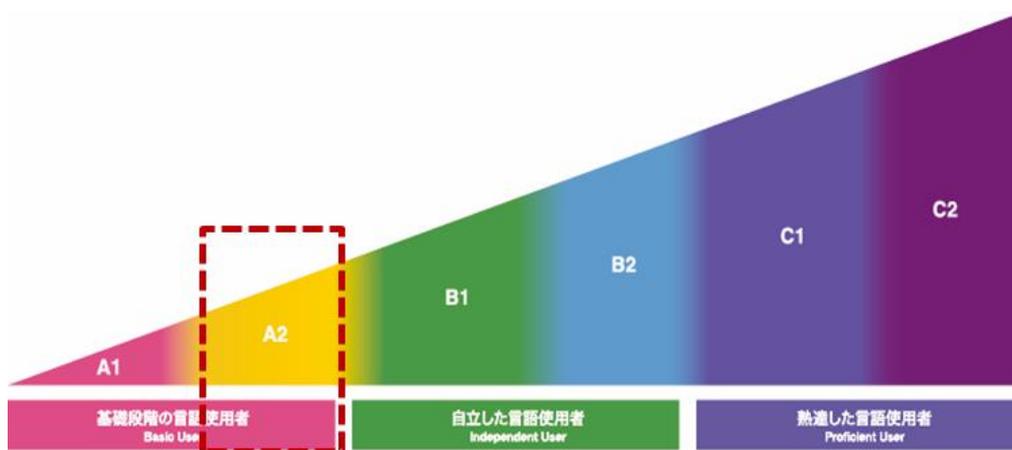
E-mail: press@jpf.go.jp

ご報告

■レベルの目安

JFT-Basic は、「JF 日本語教育スタンダード」※が日本語の熟達度として採用している CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）の枠組みに沿い、「日本語で何がどれだけできるか」という課題遂行能力をレベル指標としています。課題遂行能力は Can-do（「～できる」という文）で表し、A1、A2、B1、B2、C1、C2 の 6 レベルに分かれています（以下の図を参照）。JFT-Basic では、就労のために必要な「ある程度日常会話ができ、生活に支障がない程度の能力」の目安として、A2 レベルの一定程度の日本語力を持っているかどうかを判定します。

※JF 日本語教育スタンダードとは、国際交流基金（JF）が開発した、日本語のコースデザイン、授業設計、評価を考えるための枠組みです。



レベル	レベルの目安（隣接するレベルとの比較）
B1	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事、学校、娯楽で普段出合うような身近な話題について、標準的な話し方であれば主要点を理解できる。 ・その言葉が話されている地域を旅行しているときに起こりそうな、たいていの事態に対処することができる。 ・身近で個人的にも関心のある話題について、単純な方法で結びつけられた、脈絡のあるテキストを作ることができる。経験、出来事、夢、希望、野心を説明し、意見や計画の理由、説明を短く述べることができる。
A2	<ul style="list-style-type: none"> ・ごく基本的な個人的情報や家族情報、買い物、近所、仕事など、直接的関係がある領域に関する、よく使われる文や表現が理解できる。 ・簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄についての情報交換に応ずることができる。 ・自分の背景や身の回りの状況や、直接的な必要性のある領域の事柄を簡単な言葉で説明できる。
A1	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常表現と基本的な言い回しは理解し、用いることもできる。 ・自分や他人を紹介することができ、どこに住んでいるか、誰と知り合いか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりできる。 ・もし相手がゆっくり、はっきりと話して、助け船を出してくれるなら簡単なやり取りをすることができる。

この件に関するお問い合わせ：
国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉、原田）
Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044
E-mail: press@jpf.go.jp